

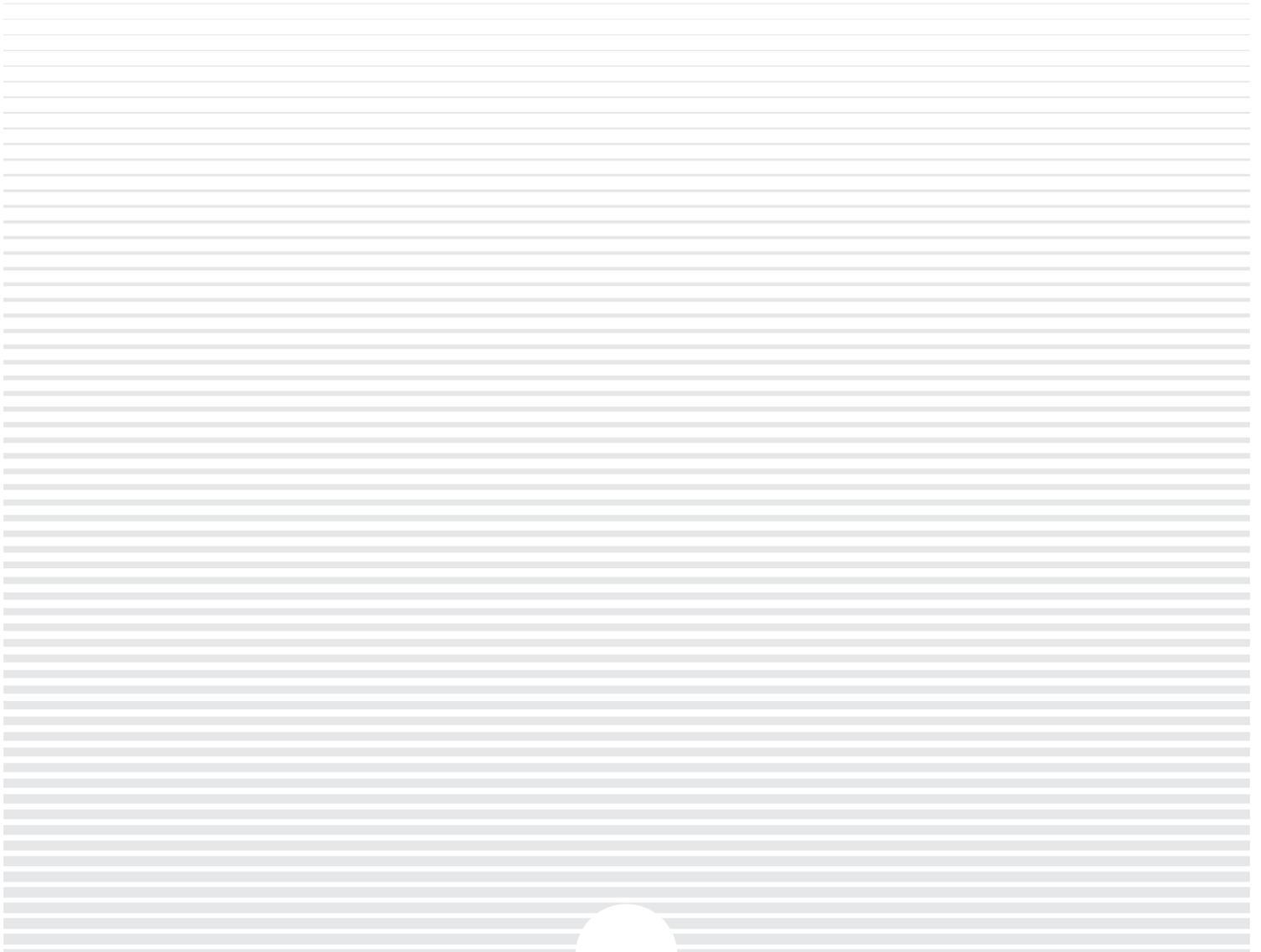
# 事業グループ活動報告

3



# 3.1

## 4つの教育事業





## (1)メンタルタフネス講座グループ活動報告

### 1. グループ事業の取組

メンタルタフネスグループでは、ストレス耐性や我慢の欠如などメンタルタフネスの不足に対応するため、セルフモチベーション、リーダーシップ、目標設定・目標達成などの理論的背景と実践的演習を組み合わせ、学生自身の経験知を高める教育プログラムであるメンタルタフネス育成講座を実施した。2年生3月に「第1回メンタルタフネス育成 ベーシック講座」(平成24年度事業で実施済み)、3年生の6月に「第2回メンタルタフネス育成 セルフモチベーション講座」、7月「第3回メンタルタフネス育成 メンタルタフネスを活かすビジネス研究講座」の計3回の講座を実施した。

『産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業』の取組として本学が進める4つの事業のうち、「①メンタルタフネス講座の正規科目化への取り組み」「②自己理解促進のための模擬面接講座(自己理解促進講座)」を連動させるため、総合的な就業力の育成を目的とした運営方法・プログラム改善等を行い年3回実施とした。平成25年度の各回の講座の概要を以下に示す。

#### <<主なスケジュール>>

日程	実施事項
6月	第2回メンタルタフネス セルフモチベーション講座
7月	第3回メンタルタフネス メンタルタフネスを活かすビジネス研究講座
3月	第1回メンタルタフネス ベーシック講座 (平成26年度新3年生対象)

#### <<主な行事>>

##### (1)「第2回メンタルタフネス セルフモチベーション講座」

開催日:平成25年6月8日(土)

会場:豊橋創造大学 A22 教室

参加人数:学生 59名、教職員 4名

講師:キャラメルソース(株) 代表取締役 初見 康行 氏

内容:セルフモチベーション

モチベーションに関する基本的な知識、モチベーションの代表的な理論(良く知られている考え方)、自分自身のモチベーション「持論」の研究



図 3.1.1 セルフモチベーション講座の様子

(2)「第3回メンタルタフネス メンタルタフネスを活かすビジネス研究講座」

開催日:平成25年7月30日(火)

会場:豊橋創造大学 A22 教室

参加人数:学生 59名、教職員 2名

講師:キャラメルソース(株) 代表取締役 初見 康行 氏

内容:仕事理解と企業研究

企業研究の必要性と考え方、ボードゲームを用いた企業研究(アパレル業界)、ケーススタディを用いた仕事理解(タイプ別アドバイス法)

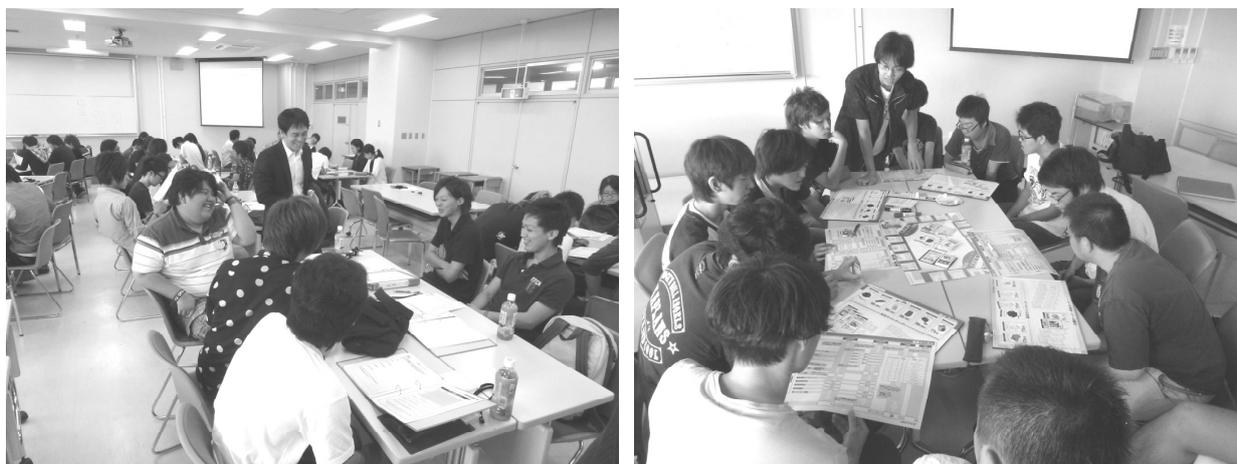


図 3.1.2 ビジネス研究講座の様子

(3)「第1回メンタルタフネス ベーシック講座 (平成26年度新3年生対象)」

開催日:平成26年3月27日(木)

会場:豊橋創造大学 A22 教室

参加人数:学生 31名、教職員 4名

講師:キャラメルソース(株) 代表取締役 初見 康行 氏

内容:自己のメンタルタフネス

メンタルタフネスの基礎知識、ストレスとは、自己のストレス状況の把握(ストレス度チェック、ストレスサー、)、ストレス対応のための資源、リラックス法などストレスに関する基本的な考え方をグループワークを通して学ぶ。

## 2. 活動成果

メンタルタフネス育成講座では、自己のメンタルタフネス、セルフモチベーションから初めて、仕事理解と企業研究、自己分析と就職活動というような内容で実施したが、各回の講座の学生アンケートの結果をまとめると以下の様になる。アンケートは5段階評価(評価 5. 非常に満足 4. 満足 3. 普通 2. 不満足 1. 非常に不満足)で実施した。全3回の講座を受講した学生からは、「就職内定までの道のりは長いですが、ストレスと上手く付き合いながら乗り切りたい」、「自分の事なのに自分では気づかないような発見があり、就職活動では自己分析がいかに大切なのかがよくわかった」等の感想が寄せられている。また、出席については全日程3日間について全員が受講できるよう各回の欠席者に対して補講を行い、

全講座について全員の出席となっている。

表 3.1.1 アンケート評価(概略)

	質問内容	第1回	第2回	第3回	平均
Q1	講座の満足度は?	4.0	3.6	3.6	3.7
Q2	講座の内容は、今後の日常生活や就職活動、働いていく上で役立つと思いますか?	4.2	4.0	3.7	4.0
Q3	講師の話は分かりやすかった	4.3	4.0	3.9	4.1
Q4	パワーポイントは理解しやすかった	4.1	3.9	3.8	3.9
Q5～	各種ワークの平均値	3.8	3.6	3.5	3.6
	平均	4.1	3.8	3.7	3.9

さらに本年度第2回セルフモチベーション講座、第3回ビジネス研究講座において、学生アンケートに社会人基礎力に関する項目を追加して事前事後アンケートを実施した。社会人基礎力に関する部分の集計結果のグラフを以下に示す。各回の講座の事前事後アンケートの差異から、講座ごとに効果が高い項目に差はあるものの、社会人基礎力(前に踏み出す力、チームで働く力)に関する押し上げ効果があることが分かる。

また、第2回セルフモチベーション講座と第3回ビジネス研究講座のアンケートにおいて、第2回の事後と第3回の事前の比較、あるいは第2回と第3回の事前アンケートの比較から、時間の経過で元に戻る項目が多いものの、社会人基礎力(前に踏み出す力、チームで働く力)に関連する項目について効果が見受けられる。

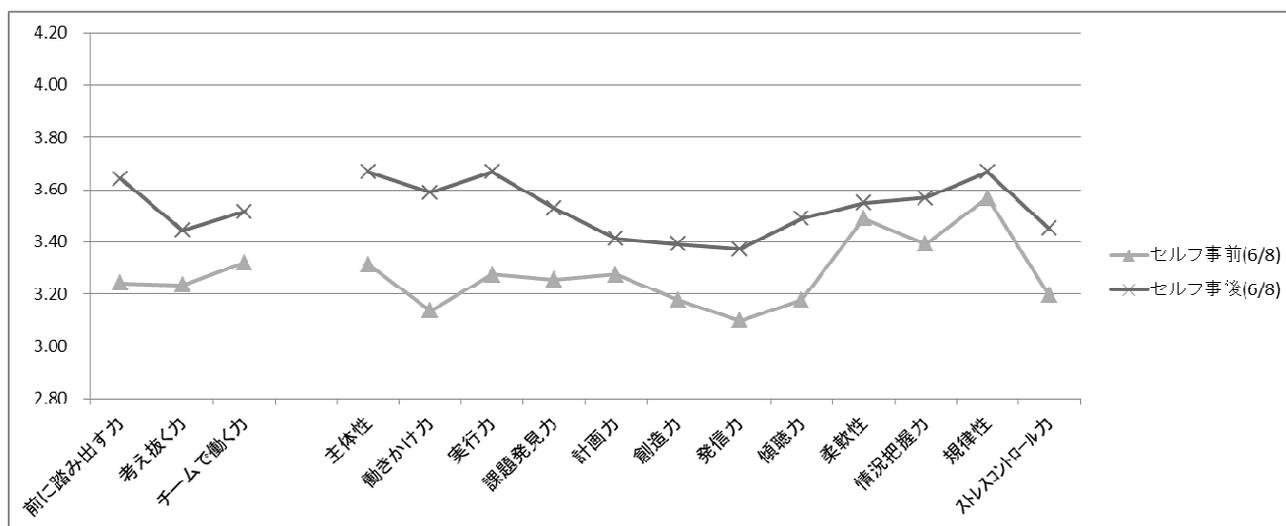


図 3.1.3 社会人基礎力アンケート評価(セルフモチベーション講座)

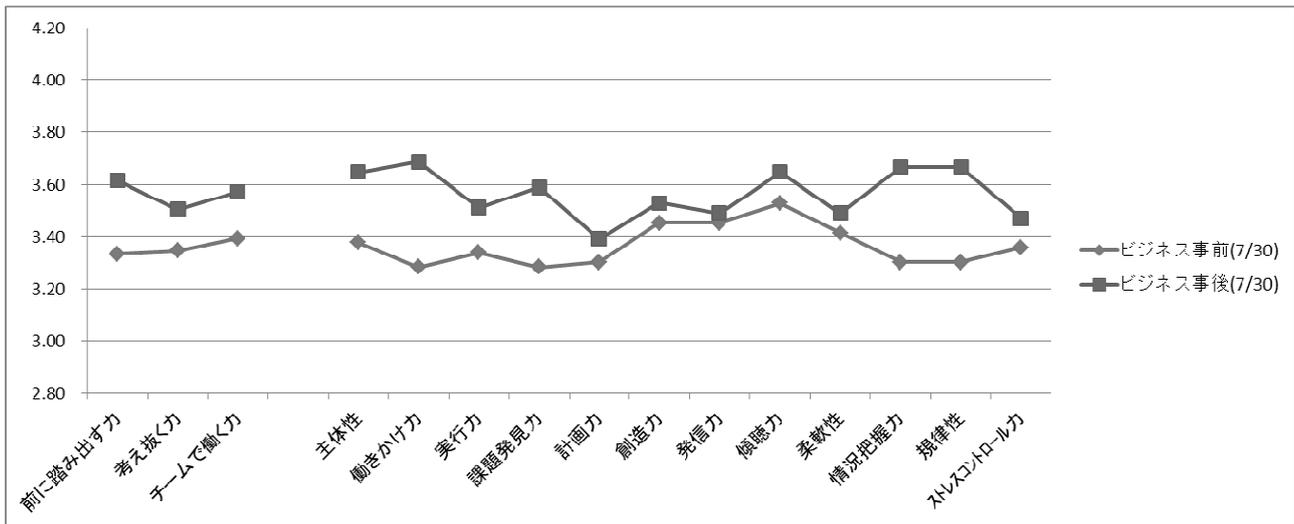


図 3.1.4 社会人基礎力アンケート評価(ビジネス研究講座)

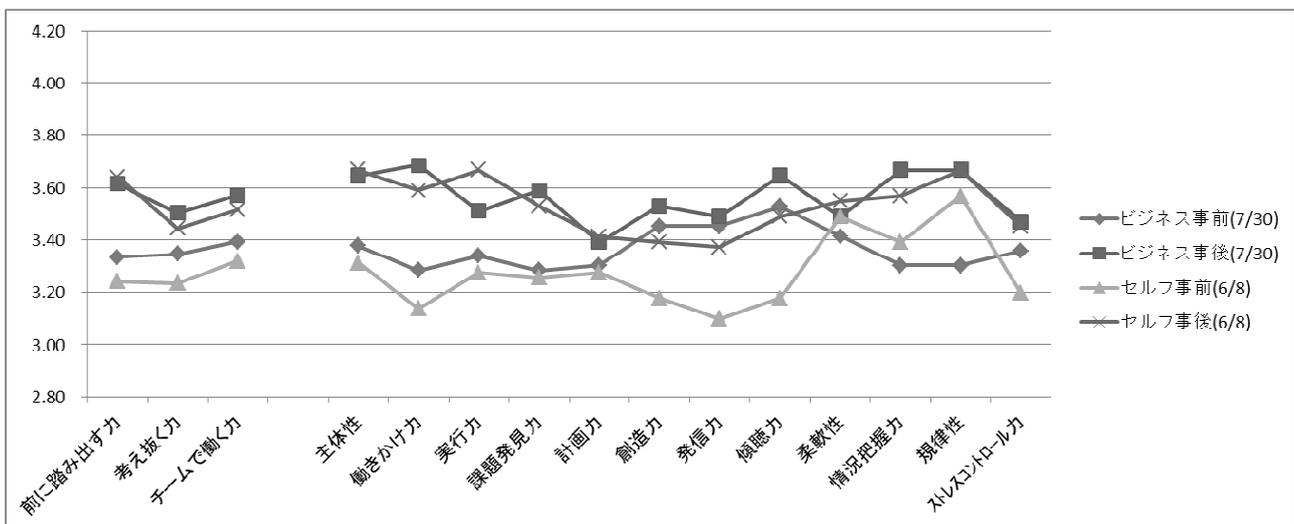


図 3.1.5 社会人基礎力アンケート評価(ビジネス研究講座)

### 3. 今後の課題点

アンケート評価の概略からは、おおむね3後半から4前後であり、多くの学生が講座の内容を理解し、メンタルタフネスへの意識付けも出来ていると考えられる。Q2 内容や Q3 講座の分かりやすさに対して Q1 講座全体の満足度や Q5 各種のワークの値が低い傾向がみられる事、第1回おもしろ村のような相互作用関連やボードゲーム関連は評価が高い様子である事などを考慮し各回のワークなどについては改善を行う必要がある。

以上の事から、メンタルタフネス育成講座については講座の意味付けと評価の低いワークについて改修を行うとともに、スケジュールについてはインターンシップおよび就職ガイダンス、2月の自己理解促進のための模擬面接講座と連携する形とする。就職ガイダンスと連携する事により、メンタルタフネス育成講座から始まり、インターンシップ、就職ガイダンス、自己理解促進のための模擬面接講座へと、学生の関心と行動をスムーズにつなげる事が出来る事を期待している。

## (2) 自己理解促進プログラムグループ活動報告

### 1. グループ事業の取組

自己理解促進グループでは、アクティブラーニングによる学生の主体性・創造性を育成し、自己理解を深める活動として、学生が採用面接官を擬似体験するバーチャル人事体験を行う「自己理解促進のための模擬面接講座(自己理解促進講座)」を実施している。このプログラムの大きな特徴は、学生が面接者と面接官の両者、特に通常経験することの出来ない面接官の役割をオブザーバーとして体験することによって、企業の人事の視点からどのような学生が求められ、何が評価の対象となるのかについて、企業側のニーズの理解と、自己の職業観を理解することが可能となる事である。

言い換えると、学生に、面接を受ける学生の立場と、企業側の面接担当者の立場の両者を体験させ、企業側のニーズを理解させ、自己理解を深め、自らの職業観を形成させる。この体験により、学生は、他学生の良い点や改善点を自分の立場に照らし合わせて学んでいくことになる。H24 年度事業の集団面接および個人面接の面接ワークを体験する教員向け講習会の実施を踏まえて、H25 年度は2 日間にわたり学生向けの「自己理解促進のための模擬面接講座(自己理解促進講座)」を実施した。

また、本学では既の実施しているメンタルタフネス育成講座と自己理解促進講座を一体化し、将来的には正規科目化(単位化)を目指している。その中で受講前後の学生の成長度を把握することを目的に、PROG(コンピテンシーテストのみ)を導入した。経営学部 2 年生については、事前測定として2 月に受験、3 月に解説会を行い、自らが持つ現時点でのジェネリックスキルを理解するとともに、さらなる成長に繋げる方法を探った。3 年生については、2 月の自己理解促進講座の後に事後測定として実施した。また、導入初年度である事から、学生への結果返却および指導のための教員向け PROG 講習会を行った。講座の概要を以下に示す。

#### <<主なスケジュール>>

日程	実施事項
4月	PROG 受験(学部1年生、2年生) 教員向け PROG 講習会
2月	PROG 受験(学部1年生、学部2年生事前測定) 自己理解促進講座
3月	PROG 受験(学部3年生事後測定) PROG 解説会(学部2年生)

#### <<主な行事>>

##### (1) PROG 受験(学部1年生)

開催日：平成 25 年 4 月 3 日(水)

会場：豊橋創造大学 A24 教室

対象：経営学部 1 年生 29 名

##### (2) 教員向け PROG 講習会

開催日：平成 25 年 4 月 11 日(木)

会 場：豊橋創造大学 3F 会議室

参 加 者：経営学部教員 12 名

講 師：リアセック 田辺明博 氏

内 容：学部 PROG 測定結果のデータ傾向解説と学生配布資料の見方および指導のポイント解説を実施。

(3) PROG 受験(学部 2 年生)

開 催 日：平成 25 年 4 月 20 日 (土)

会 場：豊橋創造大学 A24 教室

対 象：経営学部 2 年生 31 名

(4) PROG 受験(学部 2 年生事前測定)

開 催 日：平成 25 年 2 月 22 日 (木)

会 場：豊橋創造大学 A24 教室

対 象：情報ビジネス学部 2 年生 (事前測定) 60 名

(5) 自己理解促進のための模擬面接講座 (自己理解促進講座)

開 催 日：平成 26 年 2 月 27 日 (木) 28 日 (金)

会 場：豊橋創造大学 A24 教室

参 加 者：情報ビジネス学部 3 年 35 名

協力企業担当者 5 名

学部教員 12 名

講 師：学研メディコン 宗村善隆 氏、大藤律子 氏

内 容：協力企業の人事担当者には面接官として参加してもらい、集団面接および個人面接、グループディスカッションワーク部分の評価を依頼。

協力企業：医療法人整友会 総務課長 伊奈昌宏 氏

野島保険 (アメリカンファミリー生命保険代理店) 代表 野島啓 氏

甲羅グループ (株甲羅) 人事総務部 中尾紘康 氏

(株)エーアイエー (アイセロ化学グループ) ドコモショップ豊橋店

店長代理 大羽良尚 氏

医療法人豊岡会 部長代理 布村直人 氏

(6) PROG 受験(学部 3 年生事後測定)

開 催 日：平成 25 年 3 月 6 日(木)、10 日(月)

会 場：豊橋創造大学 D21 教室

対 象：情報ビジネス学部 2 年生 (事前測定) 59 名

(7) PROG 解説会(学部 2 年生)

開 催 日：平成 25 年 3 月 28 日 (木)

会 場：豊橋創造大学 A22 教室

対 象：経営学部 2 年生 31 名



図 3.1.6 自己理解促進のための模擬面接講座の様子

## 2. 活動成果

自己理解促進のための模擬面接講座では、協力企業人事担当者、学生と共に教員も面接官として参加し、集団面接と個人面接のワーク教材の質問シートと評価シートを用いて、人事担当者の立場を理解した上で、質問や評価を行う。1日目の講座において基本的な事項を学び、2日目に実際に集団面接および個人面接のワークを行う。協力企業担当者から気が付いた点や意見等を述べてもらう事によって、企業の人事の視点からどのような学生が求められ、何が評価の対象となるのかについて体験的に理解する。このように企業側のニーズの理解と、自己の職業観など自己理解を深めさせることが出来たと考えられる。また、この体験により、学生は、他学生の良い点や改善点を自分の立場に照らし合わせて学んでいくことになり、自己理解および内省をさせることが出来たと考えられる。

講座のアンケートの結果をまとめると以下の様になる。アンケートは5段階評価（5役に立ちそう、4やや役に立ちそう、3普通、2あまり役に立たなそう、1役に立たなそう）で実施した。アンケート評価の概略からは、学生は自己理解促進講座について理解し有益なものとしてとらえていると考えられる。また、協力企業担当者および教員の聞き取りからは、自己理解促進講座の模擬面接およびグループディスカッション等のワークについて良い評価が得られている。

表 3.1.2 アンケート評価(概略)

	質問内容	評価
Q1	講座の満足度は？	4.4
Q2	講座の内容は、今後の日常生活や就職活動、働いていく上で役立つと思いますか？	4.2
Q3	講師の話は分かりやすかった	4.3
Q4	パワーポイントは理解しやすかった	3.5
Q5	講座資料(ワークブック)は理解しやすかった	4.0
Q6～	各種ワークの平均値	3.9
	平均	4.1

また、学生アンケートの社会人基礎力に関する項目の集計結果を以下に示す。各回の講座の事前事後アンケートの差異から、講座の実施によって社会人基礎力に関する項目にも押し上げ効果があることが分かる。各項目をみると、相対的に自己理解促進プログラムの目的に沿った前に踏み出す力に関する項目が押し上げられていることが分かる。

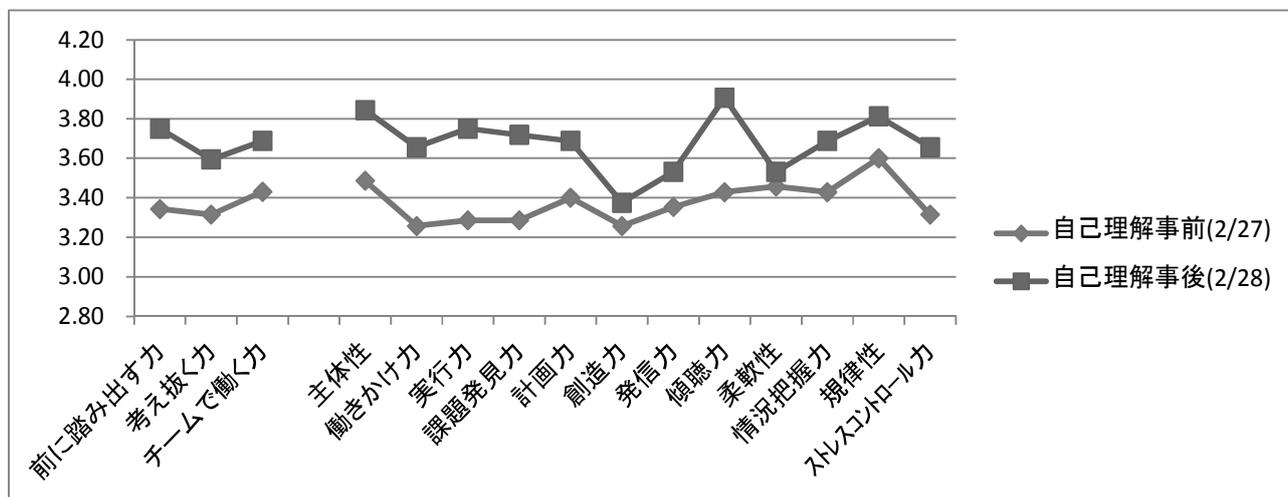


図 3.1.7 社会人基礎力アンケート評価

### 3. 今後の課題点

今後の課題は、次年度からの協力企業担当者との協働体制の整備と実施内容及び時間配分等についての検討である。また、自己理解促進プログラムは、メンタルタフネス講座と連携するものであるため、年間を通じた全体スケジュールの調整が必要である。以上の事から、自己理解促進のための模擬面接講座については、実施内容、計画についての検討と共にスケジュールについてもメンタルタフネス育成講座から始まり自己理解促進講座、PROG による測定とフィードバックにより、学生の関心と行動をスムーズにつなげる事が出来るよう十分に実施内容の検討、内外に対する講座の意味付けの周知等について徹底するよう留意したい。

### (3) 地域企業連携プロジェクトグループ活動報告

#### 1. グループ事業の取組

##### (1) 実施事業の目的と活動内容

大学生の就業力育成支援事業においては、社会から求められる人材育成を行うため、これまでの学士課程教育に加えて地域産業界との協働事業を展開し、その中で学生が自ら行動して就業力を学修することを目的としている。ここでいう就業力としては、社会人基礎力とも言われている能力を想定しており、

- ・多くの年代を含んだ企業人やグループ内メンバーとのコミュニケーション能力
- ・グループの中で役割を果たすことができる協調活動についての能力
- ・グループの中で事業を推進するための主体的に行動できる能力

を含む総合的能力の育成を目的としている。本事業では地域企業との協働プロジェクトにおいて、企業側の担当者と学生との協働作業をおこない、設定した目標が達成できるような活動の計画・実行・評価を繰り返し行う。プロジェクトにおけるミーティングは学生が上記に関する自らの能力を認識できる場となっており、その気付きを指導教員が促す。その気付きの中で、学生の自己成長やグループメンバーを模範として成長できるような学習環境の提供を目指している。本学では、インターシップやビジネスプランコンテストへの参加を前提とし実践教育を正課授業の中で運営してきたが、本事業では、学年全員が外部企業との協働事業に参加することを前提に実施し、学生全体の就業力向上を目指している。

##### (2) 評価方法と学生指導方法の構築

地域企業連携プロジェクトでは、連携企業との協働作業を通して、学生の社会人基礎力養成を行うことになっている。学生が行うべきことを自律的に認識しそして行動できるような教育体制を形成しなければならない。上記にまとめた活動における行動規範に近接できるように指導教員並びに連携企業の担当者から適宜助言や指導を与える。プロジェクト活動中間の9月とプロジェクト活動終了後の1月に社会人基礎力シートを用いて、自己評価、教員評価、メンバー間相互評価を行い、学生本人にフィードバックする。学生にとっては、養成すべき能力が明示的に提示され、また、その改善に必要な事柄をこれまでの行動に対して助言されるので、次の行動計画や改善項目の理解が容易な教育体制になっている。学生活動の支援や助言などの指導方法について、連携グループ内でアンケート、考察、周知を行うことになっている。

##### (3) 実施事業の年度経過

平成24年度はプロジェクト活動に対する指導方法や企業協働方法の検討を行い、実際にプロジェクト活動を運営した。その指導結果を踏まえて、上記目的を達成するための指導方法や企業との協働方法の改訂を行いながら学生プロジェクトの推進体制を整備した。また、学生が活動に対して内省できるように学生の社会人基礎力の評価方法とそのフィードバック方法を定めて実践した。平成25年度は、整備した運営体制を踏まえて、学生の自律的成長を促進できるよう教員側のアプローチ方法を探究した。1年間のプロジェクト活動において、9月と1月の2回評価、面談指導を実施し、学生の内省できる機会を増加させた。

プロジェクト活動では、種々の情報の収集、共有、それらの加工と意見形成に取り組まなければ

ならないが、これらを効果的、効率的におこなうためには、ICT活用が不可欠である。平成25年度は、プロジェクト・マネジメントシステムを整備しプロジェクト活動支援を行った。また、ユビキタスキャンパスグループで整備 Sozo Passport に社会人基礎力シートの結果を掲載し、学生が身につけるべき能力に対する認識を高め、改善努力できる環境を形成した。平成26年度以降は、これまでの活動の充実に努力する。

<<主なスケジュール>>

日程	実施事項
4月	キックオフ講演会 プロジェクトメンバーの決定
5月から 7月	プロジェクトテーマの決定 プロジェクト計画の策定 目的, 協働企業の選定, 確定, プロジェクト計画書の作成
8月	中間発表会(プロジェクトテーマ, 目的, 行動計画, 春学期実施内容)を パワーポイントによる発表 配布資料(A4 1枚 2段組)の作成
9月	社会人基礎力評価シートによる評価 社会人基礎力評価シートに基づく, 教員面接と助言, プロジェクト活動後半に向けて自己行動計画の作成
9月から 12月	プロジェクトの推進
12月	プロジェクト成果発表会 パワーポイントによる発表 配布資料(A4 1枚 2段組)の作成 レジюме形式
1月	社会人基礎力評価シートによる評価 社会人基礎力評価シートに基づく, 教員面接と助言, 自己行動計画の作成 成果報告書(学生)、成果報告書(教員)の作成
2月	成果報告書(教員)をもとに, プロジェクト活動の総括会議(教育力向上 研修会)の開催 次年度計画の策定 プロジェクト実施に関する改良 自己内省支援方法の検討

<<主な行事>>

(1) キックオフ講演会「豊橋を知る」

開催日：平成25年4月16日(火)

会場：豊橋創造大学 A23教室

講師：豊橋市企画部政策企画課 鈴木裕二氏

参加人数：情報ビジネス学部3年生 56名、キャリアプランニング科2年生 52名  
教職員 14名

内容：豊橋市政策企画課 鈴木裕二氏を講師に迎えて、豊橋市における産業全体の特徴や推進事業についての講演を聴講した。また、「豊橋市のプロモーション」をテーマとしたグループ活動により、協働作業のために必要な主体性やコミュニケーション能力についての意義を認識した。



図 3.1.8 キックオフ講演会の様子

(2) プロジェクト活動中間発表会

開催日：平成 25 年 8 月 6 日（火）

会場：豊橋創造大学 B14 教室

参加人数：情報ビジネス学部 3 年生 57 名

教職員 20 名

内容：4月から始めたプロジェクト活動の目的や実施計画をプロジェクトグループ内でまとめて発表することにより、今後の計画の確認とその意義を再認識した。自らのプロジェクトのプロモーションを行うことの重要性を考える機会とした。



図 3.1.9 中間発表会の様子

### (3) プロジェクト成果発表会

開催日：平成25年12月17日（火）

会場：豊橋創造大学 B14 教室

参加人数：情報ビジネス学部3年生 57名

来賓 5名

教職員 20名

来賓	：株式会社アイエスエル システム部	伊藤弘尚 氏
	豊橋市企画部政策企画課 主事	鈴木裕二 氏
	豊橋鉄道株式会社 鉄道部運輸営業課	織笠真至 氏
	豊橋市企画部シティプロモーション推進室	鈴木豪 氏
	国立大学法人三重大学 学生総合支援センター特任講師	後藤綾文 氏

内容：4月から始めたプロジェクトのテーマや意義など全体像を要約して約10分で発表し、5分の質疑を行った。協力企業の担当者や代表取締役にご参加いただき、講評をいただいた。優秀なプロジェクト活動に対して学部長賞と学生が互選するプロジェクト賞を選出し表彰した。



図 3.1.10 成果報告会の様子

### (4) 社会人基礎力評価と学生へのフィードバックミーティング

開催日：平成25年9月、平成26年1月

会場：豊橋創造大学 プロジェクト室など

内容：プロジェクト活動では、グループで決定したテーマの遂行のために、協力企業担当者や学生メンバー間での意見調整を行い、行動計画や役割分担を決定した。他者との協力、意見調整などを適切に行い、自らの役割を遂行する自律性や主体性に就いての意義を理解した。そしてプロジェクト活動の中で、意見表出や役割分担どの程度成し得たかを自省して、自らの長所・短所について熟考する機会とした。指導教員から社会人基礎力の達成度に関するフィードバック与えて、改善行動についてのミーティングを実施した。9月と1月の2回実施することによって、プロジェクト活動中の内省の機会を増やしたことで、育成すべき資質について学生、教員とも再認識でき改善すべき事項の明確化が可能になった。

社会人基礎力レベル評価基準表

に対する自己評価

3つの力	12の要素	定義	評点	発揮できなかった (どうしてもできなかった)	通常状況では発揮できた (何とかできた)	通常状況で効果的に発揮できた (見事にできた)	発揮できた例(※)
				レベル1	レベル2	レベル3	
前に踏み出す力	主体性	物事に進んで取り組む力	1	○			自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる 自分の強み・弱みを把握し、困難なことでも自信を持って取り組むことができる 自分なりに判断し、他者に流されず行動できる
	働きかけ力	他人に働きかけ巻き込む力	2		○		相手を納得させるために、協力することの必然性(意義、理由、内容などを伝えることができる 状況に応じて効果的に巻き込むための手段を活用することができる 周囲の人を動かして目標を達成するパワーを持って働きかけている
	実行力	目的を設定し確実に行動する力	2		○		小さな成果に喜びを感じ、目標達成に向かって粘り強く取り組み続けることができる 失敗を怖れず、とにかくやってみようとする勇気を持って、取り組むことができる 強い意志を持ち、困難な状況から逃げずに取り組み続けることができる
考え抜く力	課題発見力	現状を分析し目的や課題を明らかにする力	2		○		成果のイメージを明確にして、その実現のために現段階でなすべきことを的確に把握できる 現状を正しく把握するための情報収集や分析ができる 課題を明らかにするために、他者の意見を積極的に求めている
	計画力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	2		○		作業のプロセスを明らかにして優先順位をつけ、実現性の高い計画を立てられる 常に計画と進捗状況の違いに留意することができる 進捗状況や不測の事態に合わせて、柔軟に計画を修正できる
	創造力	新しい価値を生み出す力	3			○	複数のものもの、考え方、技術等を組み合わせ、新しいものを作り出すことができる 従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる 成功イメージを常に意識しながら、新しいものを生み出すためのヒントを探している
チームで働く力	発信力	自分の意見をわかりやすく伝える力	2		○		事例や客観的なデータ等を用いて、具体的にわかりやすく伝えることができる 聞き手がどのような情報を求めているかを理解して伝えることができる 話そうとすることを自分なりに十分に理解して伝えている
	傾聴力	相手の意見を丁寧に聴く力	3			○	内容の確認や質問等を行いながら、相手の意見を正確に理解することができる 相槌や共感等により、相手に話しやすい状況を作ることができる 相手の話を素直に聞くことができる
	柔軟性	意見の違いや立場の違いを理解する力	2		○		自分の意見を持ちながら、他人の良い意見も共感を持って受け入れることができる 相手がなぜそう考えるかを、相手の気持ちになって理解することができる 立場の異なる相手の背景や事情を理解することができる
	状況把握力	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力	1	○			周囲から期待されている自分の役割を把握して、行動することができる 自分だけでなく、他人ができることを的確に判断して行動することができる 周囲の人の状況(人間関係、忙しさ等)に配慮して、良い方向へ向かうよう行動することができる
	規律性	社会のルールや人との約束を守る力	1	○			相手に迷惑をかけないよう、最低限守らなければならないルールや約束・マナーを理解している 相手に迷惑をかけたとき、適切な行動を取ることができる 規律や礼儀が特に求められる場面では、相手がいないように正しくふるまうことができる
	ストレスコントロール力	ストレスの発生源に対応する力	2		○		ストレスの原因を見つけて、自力で、または他人の力を借りても取り除くことができる 他人に相談したり、別のことに取組んだりする等により、ストレスを一時的に緩和できる ストレスを感じることは一過性、または当然のことと考え、強く受け止めないようにしている

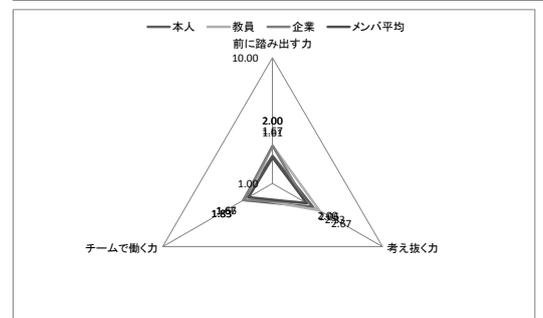
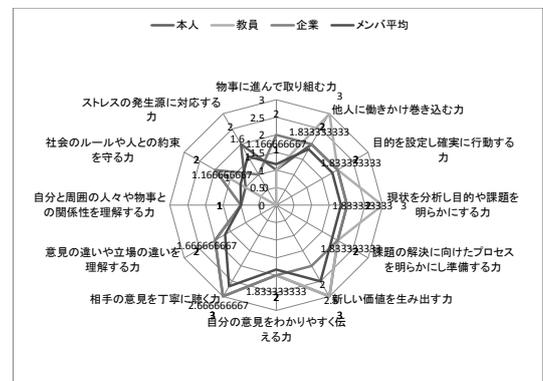
※各能力要素を発揮できた例は、この内容に限るものではない。

図3.1.11 社会人基礎力シート (評価のための行動規範)

社会人基礎力レベル評価基準表

学籍番号	氏名			
実施回数	回目	実施年月	H	年 月

3つの力	12の要素	定義	評点	評点												本人	教員	企業	メンバ平均
				本人	教員	企業	1	2	3	4	5	6	7	8	9				
前に踏み出す力	主体性	物事に進んで取り組む力	1	1	2	1	1	1	1	1	2								1.17
	働きかけ力	他人に働きかけ巻き込む力	2	3	2	2	2	1	2	2	2	2	2						1.83
	実行力	目的を設定し確実に行動する力	2	2	2	2	2	1	2	2	2	2	2						1.83
考え抜く力	課題発見力	現状を分析し目的や課題を明らかにする力	2	3	2	2	2	1	2	2	2	2							1.83
	計画力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	2	2	2	2	2	1	2	2	2	2							1.83
	創造力	新しい価値を生み出す力	3	3	2	3	3	1	3	3	2								2.5
チームで働く力	発信力	自分の意見をわかりやすく伝える力	2	2	2	2	2	1	2	2	2	2							1.83
	傾聴力	相手の意見を丁寧に聴く力	3	3	3	3	3	1	3	3	3								2.67
	柔軟性	意見の違いや立場の違いを理解する力	2	2	2	2	2	1	2	2	1								1.67
	状況把握力	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力	1	1	1	1	1	1	1	1	1								1
	規律性	社会のルールや人との約束を守る力	1	2	2	1	1	1	1	1	2								1.17
	ストレスコントロール力	ストレスの発生源に対応する力	2	0	1	1	1	1	2	2	2								1.6
集計	前に踏み出す力		1.67	2.00	2.00														1.61
	考え抜く力		2.33	2.67	2.00														2.06
	チームで働く力		1.83	1.67	1.83														1.66



この評価を元に担当の教員と面談し、改善すべきことの助言を求めてください。そして、上記評価を受けて、これからの行動に対して考えたことを自由に記述してください。これは現段階で考えたことや感じたことを記録することが目的ですので、今後の行動をしばるものではありません。

記入欄:

図3.1.12 社会人基礎力シート 集計表

(5) プロジェクト実施総括会議（第3回教育力向上研修会として実施）

開催日：平成26年2月19日

会場：豊橋創造大学 D棟 3会会議室

参加者：専任教員全員

内容：プロジェクト活動の対する成果報告書を教員がまとめた上で、学生の社会人基礎力育成方法について以下の次第で協議した。

第3回教育力向上研修会 次第

- 1) 補助事業のあらましの確認
- 2) プロジェクト運営における教育効果（全体総括）  
社会人基礎力シートの集計と考察  
：教育効果測定・指導方法検討WG
- 3) 各プロジェクト運営上の工夫と課題  
：担当教員からの口頭発表
- 4) 次年度運営について：協議

## 2. 活動成果

(1)参加学生の社会人基礎力育成の観点における成果：地域産業界と連携したプロジェクトとして平成24年度は11テーマ、平成25年度は8テーマのプロジェクト活動を計画、実施した。その活動において学生が主体的、自律的、協調的にグループで行動して、テーマの決定、行動計画、作業の実施、進捗管理を行った。これらをグループの協議を通して決定するなど、グループ活動の運営の経験を積むとともに、これらを効率的に進めるために必要な能力や行動について認識を深めた。

(2)教育充実に関する観点の成果：本補助事業においては、学生の社会人基礎力を養成できる教育体制の構築や充実が目的である。プロジェクト活動は、学生がグループで作業を進める中での気づきや行動改善を行うための活動である。本補助事業の中心的事業であり、これらをカリキュラムに組み込み教育の実施、評価方法などを推進させた。具体的に事業展開することにより実施方法の改善ならびに改良を進めた。また、プロジェクト運営に従事することによって指導者の教育技量の自己研鑽を進めるとともに、総括会議での問題点の共有化による教育体制の改善を進めている。

(3)産業ニーズ把握に関する観点の成果：人材育成に対する意見だけでは、抽象的で理解し難い。そのため、プロジェクト活動の中で、必要な視点や行動を明示して学生の理解を深めている。プロジェクト活動では、活動中に連携企業の企業人からも直接助言があるため、学生も実践の中で求められる能力について学修している。

## 3. 実施事業を踏まえた次年度の方策

本事業の目的は、学生の社会人基礎力を養成することである。そのための教育体制や指導方法について検討実施した。プロジェクトのテーマ設定、活動計画の立案などの学生生活活動を支援する方法についての改善をすすめ、教育体制整備をより一層推進する。

## (4) 3者間協働インターンシップグループ活動報告

### 1. グループ事業の取組

インターンシップは、学生が企業における就業体験を通して、①現場での実務から大学での学びの意味および意義を再確認して積極的な学びの姿勢を身に付けること(学びの往還)、②就業に対する意識を高めるとともに、職業・職種に対する理解を深めることを目的とした産官学連携の教育プログラムである。

インターンシップにより、学生には仕事上の問題点を自ら発見し、目的を設定して仮説を立て、創造的に解決する機会を提供する。また、就業体験に関する発表資料および報告書を、教員・企業からの指摘をフィードバックしながら作成することで、アクティブラーニングを伴った主体性・創造性の育成を目指す。そのために、本年度は以下の内容を実施した。

- ・事前指導(実習企業の事業概要の理解、インターンシップへの参加目的の明確化)  
実習先企業の事業概要の理解を深めるとともに、インターンシップへの参加目的を明確にするために、発表とその内容に対する議論を中心としたグループワークを実施する。
- ・実習(就業体験)  
各自が実習先に企業にて、1～2週間の就業体験を行う。
- ・報告会の実施(発表資料の作成)  
プレゼンテーション資料の作成を通して、実習内容を振り返りながら自身の設定したテーマの内容・発見した問題点に関する考察を教員および企業担当者の指摘をフィードバックしながら深める。  
また、発表練習をグループ単位で実施することにより、学生自身にどのような発表をすべきかを考えさせる。
- ・報告書の作成  
報告会の実施同様、報告書の作成を通して、実習内容を振り返りながら自身の設定したテーマの内容・発見した問題点に関する考察を教員および企業担当者の指摘をフィードバックしながら深める。

なお、本年度は情報ビジネス学部3年生7名が5企業・事業所のインターンシップに参加した。参加者の内の1名は、2年次でもインターンシップに参加しており、今回も前回と同じ事業所・部署で実習を行った。実習期間は、4事業所では2週間(10日)、1事業所では1週間(5日)であった。

#### <<主なスケジュール>>

平成25年度の主なスケジュールは、以下の通りである。

日程	実施事項
6月	前指導(実習先のマッチング・自己紹介書の作成指導)(担当:キャリアセンター)
7月	事前指導(自己紹介書の校閲指導)(担当:科目担当教員)
8・9月	実習(1～2週間) 実習先の訪問(担当:キャリアセンター、就職委員会教職員、専門ゼミナール担当教

	員)
9・10月	報告会資料の作成指導・発表練習(担当:科目担当教員、専門ゼミナール担当教員)
10月	インターンシップ報告会の実施 企業との座談会の実施
10～12月	報告書の作成指導(担当:科目担当教員、専門ゼミナール担当教員) ※学内での校閲終了後、企業担当者による校閲を受ける
3月	報告書の完成・印刷

## <<主な行事>>

### (1) インターンシップ報告会

開催日：平成25年10月21日(月)

会場：豊橋創造大学 A23教室

参加人数：インターンシップ実習先企業・事業所、近隣3高校の教職員、  
経営学部2年生 7名

内容：本年度のインターンシップの実施スケジュールおよび実施状況を説明し、その後実習生7名による報告が行われた。報告の中で、実習生からは「インターンシップにはできる限り早い時期に参加した方がよい。」「参加するまでは大変に感じるが、参加して他大学の学生と交流もできる。自分の意識を変える大きな機会となるので、是非参加して欲しい。」といった声が聞かれた。また、昨年度と同じ事業所(部署)のインターンシップに参加した実習生からは、「2年目ということで、昨年度より高度な仕事に携わらせて頂くことができ、より充実した実習を行うことができた。」との感想が聞かれた。

その後、実習先企業・協力企業から学生の報告内容に対してコメントを頂くとともに、各社のインターンシップの取り組み、およびインターンシップに参加する際の心構えなどのコメントを頂いた。



図 3.1.13 インターンシップ報告会の実施風景

### (2) インターンシップ座談会

開催日：平成25年10月21日(月)

会場：豊橋創造大学 3階会議室

参加人数：インターンシップ協力企業、本学教職員

内 容：本学の今年度のインターンシップの実施状況を説明し、続いて企業・事業所の方よりインターンシップにおける学生の実習状況、問題点、今後の課題などについて様々な意見を頂いた。

学生の実習状況について、企業側からは、「全般的に、表現が乏しく、主体的に意見を述べる姿勢がない」、「大学の事前指導では、接客業として最低限必要な挨拶はできるように意識させて欲しい」、「自ら挙手して発言するような積極性が不足している」という声が聞かれた。

このような社会人基礎力に関わる産業界ニーズの把握のために、実習生の社会人基礎力の評価への協力を各社に打診して了承を得た。



図 3.1.14 インターンシップ座談会の実施風景

## 2. 活動成果

インターンシップが産学官連携の教育プログラムであるという観点から、本学では従前より実習中の学生の評価を実習先企業に依頼している。この評価を通して、学生に不足している点を明確にするとともに、企業が学生に対してどのようなものを求めているのか、そのニーズの把握に努めてきた。

また、その評価内容を学生にフィードバックしながら実習報告書の作成に取り組み、作成した実習報告書に対しても実習先企業に校閲評価を依頼している。

それら評価の記入票を図 3.1.15 に示す。なお、各評価票の主な評価項目は以下の通りである。

- ・実習評価記入票(図 3.1.15:左)

職務規律の遵守、職務に取り組む姿勢、実習テーマへの取り組み等の評価結果を記入

- ・報告書原稿の校閲評価

報告書の「テーマ」の設定、報告書本文の記述内容(実習先事業所の概要、実習概要、実習内容、図表および解説内容、考察)について、評価結果を記入

豊橋創造大学インターンシップ実習評価

事業所名		記入者氏名	
部署名		実習学生名	
実習日時	平成 年 月 日 ( ) ~ 平成 年 月 日 ( )		

Ⅰ 評価

(1)職務規律の遵守について

(2)職務に取組む姿勢について (意欲・積極性・協調性・責任感)

(3)実習テーマへの取組み等について

(4)その他この学生についてご意見をお書きください

Ⅱ その他

本学インターンシップ委員会についてご意見・ご要望  
(実習学生が複数で、記入者が同一の場合はいずれか一部にお書きください)

(実習先事業所→大学)

本様式は、本学「個人情報保護に関する規程」の定めに従い、取扱いをさせていただきます。  
なお、本様式の記載事項(個人情報)はインターンシップ以外の目的では使用いたしません。

豊橋創造大学 キャリアセンター

2013年度

インターンシップ報告書原稿の校閲評価 記入票

1. ご担当者様についてご記入ください

実習先 事業所名			
校閲 ご担当者	部署名		
	役職名	お名前	
実習学生	学籍番号	氏名	

2. 上記学生の報告書原稿を以下7項目について評価してください

報告書原稿の評価項目	該当する評価番号を○で囲んでください			
1) 報告書「テーマ」の設定	1. 訂正を要する	2. 普通	3. 適切	4. 良好
2) 日程表(1ページ)	1. 訂正を要する	2. 普通	3. 適切	4. 良好
3) 「はじめに」の内容	1. 訂正を要する	2. 普通	3. 適切	4. 良好
4) 実習先事業所の概要	1. 訂正を要する	2. 普通	3. 適切	4. 良好
5) 実習概要または実習内容	1. 訂正を要する	2. 普通	3. 適切	4. 良好
6) 図表および解説内容	1. 訂正を要する	2. 普通	3. 適切	4. 良好
7) 考察の記述内容	1. 訂正を要する	2. 普通	3. 適切	4. 良好

3. 報告書原稿の修正の程度を該当する番号を○で囲んでください

修正の程度	学生およびインターンシップ委員会の対応内容
1. 全面的に修正してほしい	学生およびインターンシップ委員会を全面的に修正させ、委員会の教員点検の後、貴事業所へご高意をお願いします
2. 訂正箇所が多く有り、指示にしたがって全て修正してほしい	全ての訂正箇所をご指示にしたがって学生に修正させ、貴事業所へ高意を再度お願いします
3. 訂正箇所が随分あり、指示にしたがって修正して大学内で点検してほしい	訂正箇所をご指示にしたがって学生に修正させ、委員会の教員による点検の後、報告書原稿を校了とします
4. 修正する必要なし	本学キャリアセンターで点検して校了とします

4. 初校原稿に対する総合評価の該当番号を○で囲んでください

総合評価	5. 大変良い	4. 良い	3. 良い	2. 報告書として可	1. 不可(要訂正)
	0. 全面的に修正				

5. その他、学生へのご指導または報告書編集などに関するご意見などをご記入ください。

注)上記の個人情報は、本学のインターンシップ以外の目的で使用することはいたしません。  
豊橋創造大学 キャリアセンター

図 3.1.15 実習評価票(左:実習評価記入票、右:報告書原稿の校閲評価記入票)

こうした評価に加えて、本学では従前よりインターンシップ座談会を通して学生に対する産業界ニーズの把握に努めてきたが、今年度は新たに社会人基礎力レベル評価表(図 3.1.16)の記入を実習先企業に依頼し、その把握に努めた。

社会人基礎力レベル評価表では、社会人基礎力に関する3つの力、12項目について、実習配属先の指導担当者に学生の到達レベルを評価頂いた。なお、評価に際して基準が必要であるとの企業側からの要望から、今年度は他大学の学生と比較して当該学生の到達レベルを判断頂くこととした。

以上のような取り組みの結果、学生に対して多くの実習先企業から主体性、実行力、課題発見力の強化を望む声が聞かれた。その一方で、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性については、概ね高い評価が与えられていた。

ただし、社会人基礎力のどの力が不足していると判断されるかは、学生個々の状況に依存しており、例えば主体性や課題発見力で高い評価を得ている学生もいる。

このように、今年度は学生の社会人基礎力に対する産業界ニーズをより細かく把握することができた。今後、各学生に対する社会人基礎力評価の内容を精査して、大学全体で指導すべき内容と学生個々の状況に合わせて指導する内容を区別し、事業全体の指導体制・方法の改善を検討する。

3つの力		12の要素	定義	できていなかった 評価 1	あまりできていなかった 評価 2	同等のレベルでできていた 評価 3	他の学生よりもできていた 評価 4	行動(実施)できていた例
前に踏み出す力	主体性	物事に進んで取り組む力						自分がやるべきことは何かを判断し、自発的に取り組んでいた
	働きかけ力	他人に働きかけ巻き込む力						相手を納得させるために、協力することの必然性(意義、理由、内容など)を伝えるなど、働きかけていた
	実行力	目的を特定し確実に行動する力						目標達成に向かって、強い意志を持ち、困難な状況から逃げずにねばり強く取り組み続けていた
考え抜く力	課題発見力	現状を分析し目的や課題を明らかにする力						現状を正しく認識し、現状でなすべきことを的確に把握して課題を明らかにしていた
	計画力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力						作業のプロセスを明らかにして、実現性の高い計画を立て、また状況に合わせて柔軟に計画を修正していた
	創造力	新しい価値を生み出す力						複数のもの、考え、技術等を組み合わせ、新しいものや解決策を作り出していた
チームで働く力	発信力	自分の意見をわかりやすく伝える力						聞き手がどのような情報を求めているかを理解し、事例や客観的なデータ等を用いて具体的にわかりやすく伝えていた
	傾聴力	相手の意見を丁寧に聴く力						内容の確認や質問等を行いながら、相手の意見を正確に理解していた
	柔軟性	意見の違いや立場の違いを理解する力						自分の意見を持ちながら、他人の良い意見も共感を持って受け入れていた
	状況把握力	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力						周囲の人の状況(人間関係、忙しさ等)に配慮して、良い方向へ向かうよう行動していた
	規律性	社会のルールや人との約束を守る力						相手に迷惑をかけないよう、最低限守らなければならないルールや約束・マナーを理解して行動していた
ストレスマネジメント	ストレスの発生源に対応する力						ストレスの原因を見つけて、自力または他人の力を借りて取り除くことができていた	
		実習中の挨拶・言葉遣いなど						

※ 各項目につきまして、他大学の学生と比較して当該学生の達成度がどの程度であると感じられたか、該当する評価レベルに ○ を記入下さい。  
※ 記入が困難と思われる項目につきましては、空白のまま構いません。

図 3.1.16 実習生の社会人基礎力レベル評価表

### 3. 今後の課題点

本事業の実効性を高めるために、今年度は従前以上に①インターンシップ活動を通じた学生の気づき(考察)を深化させる、②教員・学生・企業の共同を活性化にする新たなインターンシップ・プログラムの構築を検討することを念頭に、事業を展開してきた。また、学生に対する産業界ニーズをより詳細に把握するために、実習先企業には従前の実習評価票に加えて社会人基礎力レベルの評価を依頼した。

今年度の取り組みから、学生に対して産業界が、主体性、実行力、課題発見力の強化を強く望んでいることが示された。今後、インターンシップ実習前の事前指導の中に、これらの力を引き上げるような方策を織り込む必要がある。

また、学生の主体性を育むという観点からは、2年次学生のインターンシップへの参加機会を本格的に増やすことも必要である。従来、インターンシップの参加対象学生は主に3年次学生としてきた。一方で、今年度のインターンシップ座談会では多くの実習先企業が2年次学生の受入に前向きであった。そうしたことも踏まえ、1年次学生に対してインターンシップへの興味を喚起する機会を新たに設け、2年次でのインターンシップ参加者の増加につなげる必要がある。

